

OF-2

知っておきたい前立腺癌の知識—体質、早期発見、最新の治療—

大家 基嗣（慶應義塾大学・泌尿器科）

前立腺癌は今、日本で最も増加が顕著ながんです。欧米化した生活習慣が原因と考えられていますが、はっきりとした増加の原因は不明です。「がん家系」という言葉を良く耳にしますが、家系内に前立腺癌の方がいらっしやるとリスクは高まりますので、要注意です。

医学が進歩した現在においても、採血するだけで早期癌が発見できるのは前立腺癌だけです。血液を採取して、PSA（前立腺特異抗原）の値を測定し、高い値だと前立腺癌が疑われます。がんの確定診断のためには生検が必要です。

前立腺癌と診断された場合にはがんの進行具合、つまり、転移していないかどうか、がんが周囲の組織に浸潤していないかどうかをMRI、CT、骨シンチグラフィなどの画像検査で調べます。もし、転移があったとすればホルモン治療と呼ばれるお薬の治療を行いません。

幸い早期がんであると診断された場合は手術治療、小線源治療と呼ばれる放射線治療、あるいは監視療法が行なわれます。手術治療はダヴィンチと呼ばれる遠隔操作ロボットが普及しています。このように早期がんでは治療の選択肢が複数あります。このことがかえって患者さんにとって混乱の素になっていると危惧します。大事なことは、主治医とじっくり話し合い、納得して治療を受けることだと考えています。

たとえ、転移が見つかったとしても治療成績は年々向上しています。新しい薬が次々と使用されるようになったからです。前立腺癌は骨に転移しやすいこと、ホルモン治療を行なう点で乳癌と似ていると言われていています。転移性のがんでは男性ホルモンを下げる薬の治療をまず行います。効果は1年以上持続することが多いですが、効かなくなった場合も新しい治療が行なわれるようになりました。ホルモン治療が効かなくなった場合は抗癌化学療法に移行しますが、ここでも新たな薬が使用できるようになりました。

理解のためにはかなり専門的な知識が必要となる前立腺癌治療ですが、診断から治療の流れをわかりやすく解説したいと思っています。